

ふるさとへぐり再発見

きびないしんのうぼ
吉備内親王墓

21



梨本御陵苑住宅地の中に立地する古墳で、直径20m程の円墳です。

地元では「ウシヲ塚」と呼ばれ、江戸時代以降の伝承から、奈良時代の初め頃、藤原氏の陰謀に倒れた左大臣長屋王の夫人の墓に治定されています。

矢田丘陵より西に大きく突き出した尾根の南斜面中段に立地し、南方への眺望のよい古墳です。

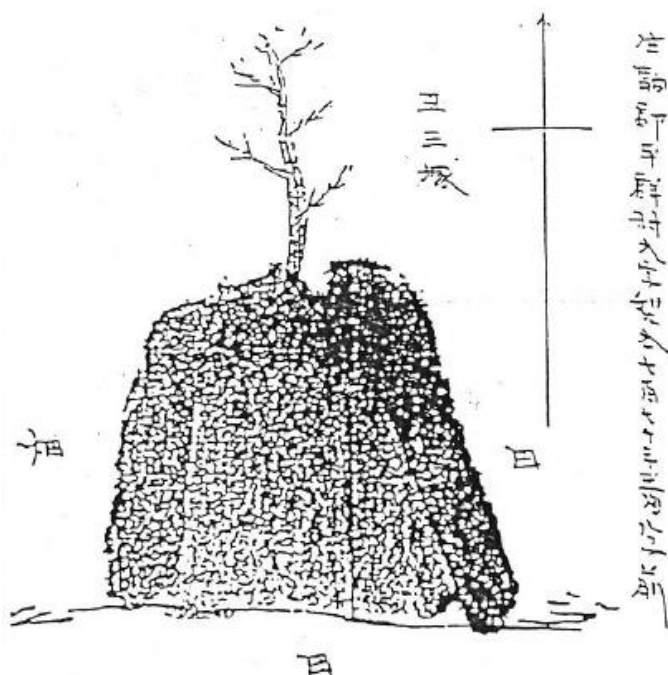
明治26年、奈良県嘱の野淵竜潜^{のぶちりょうせん}の調査報告には、塚の上に埴輪の破片が多くみられ、西より南に石椁^{せつかく}の柱のような大石が鍵手に埋まっており、そのうえ婦人の墓との伝承があることから、内親王の墓であろうと推定しています。

ところで、宮内庁書陵部^{しりょうぶ}が平群町・梨本雛王塚^{ひなおうづか}古墳出土の草摺状^{くさずりじょう}の形象埴輪片と円筒埴輪片を保管しています。

現在、梨本所在の古墳で、埴輪を使用したものは確認されていないうえに、墓を管理している宮内庁が保管していることから、この埴輪が吉備内親王墓の出土品ではないかと考えられます。

又、鍵手に組まれた大石は横穴式石室の一部と考えるのが順当であり、文面より見て古墳であることは明白で、奈良時代の墳墓とは考えにくいものです。

吉備内親王墓 明治32年の絵図



そして、周辺には横穴式石室を主体部とする古墳が散在的に分布し、吉備内親王墓もその一つとみてよいでしょう。

野淵竜潜が調査したときの絵図には墳丘の南側にも石が記され、西側は畑となっていますが、現状は丸く美しい塚となっています。

明治末年頃に長屋王墓とともに治定されたとき、墳丘にもかなり整備の手が加えられたのかも知れません。